

お〜い	平成26年	147
	月刊	1月号
発行	「お〜い」編集委員会	
	品川区西大井 4-1-8	
	大井第三地域センター内	
	☎ 3773-2000	

町会めぐり

水水水 鹿島町会一泊バス旅行 水水水

平成23年10月東北大震災の半年後に、東北復興の一助になればと会津地方を町会旅行で訪れましたが、今年も山形県最上峡、宮城県鳴子峡、松島遊船とバスでの東北長距離ドライブを進行しました。

10月28日(月)総勢30名で晴天の鹿嶋神社前を出発、安達太良山を見ながら山形自動車道を経て最上川に到着、芭蕉ラインと言われる船下りを人気の美人船頭さんの説明と民謡で楽しみました。その夜は鳴子温泉で恒例のカラオケ大会。翌朝早く鳴子峡散策、朝日に映える溪谷の紅葉は息をのむ美しさで、皆大感激でした。

その後、松島へ行き、塩釜まで遊覧船で島巡り、船内のガイドさんが説明してくれた大津波の経験談と未だ残る痕跡に地震を実感しました。

塩釜で被害から復興した蒲鉾屋さんが笹蒲鉾の焼き方を実習させてくれ、そこでおみやげを皆たくさん買って、夜9時を過ぎてしまいました。鹿嶋神社前にて無事解散しました。

(小林 記)



水水水 みかん狩りに行ってきました！ 水水水

去る11月17日に、青少年対策大井第三地区委員会の行事で「みかん狩りと砂浜あそび」を行いました。三浦海岸駅から徒歩7～8分の吉田園でみかん狩りをし、その後三浦海岸の砂浜に移動してゲーム大会をする、という行事です。

当日は好天に恵まれ風もなく絶好の行楽日和のもと、151名の参加者と共に楽しい一日を過ごすことができました。

吉田園のみかんは、どの木も甘く美味しかったです。野菜の販売もしており、三浦大根やキャベツがなんとオール100円。ここぞとばかりに買い込み、帰り道に重さに苦しんだ保護者も多数いたようです。

砂浜に移動してお弁当を食べたあとはゲーム大会。幼児・低学年・高学年・大人とチーム分けし、それぞれがビーチフラッグ・くつ飛ばしで白熱して盛り上がりました。特に大人チームでは童心に返ったようなはしゃいだ姿も見受けられるほどでした。

秋の気持ちのいい天気の中、大人も子どもも自然を満喫し、目いっぱい楽しめた一日となりました。

(青少年対策地区委員会青少年部 稲葉勉 記)



謹賀新年

おせち料理の由来と日本全国のお雑煮マップです！

～日本では、お正月といえば「おせち料理」と「お雑煮」が欠かせないものですが、その由来や日本各地のお雑煮について調べてみました～

おせちは神に供える食べ物。漢字では「御節料理」と書きます。おせちは、節日に神様に供える「五節供(せちくまたはせっく)料理」に由来する言葉。五節日は、一月一日の『元旦』と三月三日の『ひな祭り』、五月五日の『端午』、七月七日の『七夕』、九月九日の『重陽』を指しますが、今では元日に供える料理だけを「おせち」と呼んでいます。おせちは年神様へ供えてからいただくもので、神様とともに新年を祝う意味があります。お正月の朝、おせちとともにいただくのがお屠蘇とお雑煮。お屠蘇には一年の邪気を祓う意味があります。お雑煮は、若水とその年はじめての火で作るのが習わしです。

【お屠蘇】ももとは中国の風習で、「鬼気を祓い、人魂を蘇らせる」とされる薬酒。山椒、肉桂、桔梗、防風などの漢方薬を調合した「屠蘇散」を日本酒かみりんに浸して作ります。屠蘇散は、薬局などで購入できます。

【お雑煮】年神様にお供えた餅を野菜とともに煮込んで食べたのがはじまりといわれ、地域によって材料や作り方はさまざま。関東では、すまし汁に焼いた四角い切り餅、関西では白味噌仕立てで丸餅を入れるのが一般的。



北海道と沖縄にはお雑煮がない!?

その昔、北海道はアイヌの人々が暮らしていた土地、沖縄は琉球国として別の国として存在し、食文化が異なっていた事でお雑煮がなかったのです。お正月のお雑煮が全国的に広まったのは元禄以降。当時から餅の形、味付けに違いがありました。

出典：(株)毎日コミュニケーションズ「季節の行事と日本のしきたり」

(楽食隊 青木利幸 記)